

第 1 回白滝地域まちづくり会議議事録

日時	令和 2 年 3 月 30 日 (月) 18 : 00 ~ 20 : 50	
場所	白滝国際交流センター研修室 4	
出席者	矢木会長、大久保副会長、岩城委員、今野委員、山崎委員、中村委員 白滝総合支所 鴻上支所長、総務部企画課 佐藤課長、中原主幹	
欠席者	内河委員、江面委員	
次第	発言者	発言要旨
1 開会	企画課	ただ今より令和元年度第 1 回白滝地域まちづくり会議を開催する。内河委員、江面委員から欠席の連絡をいただいている。大久保委員は若干遅れるとのこと。行政側で鴻上支所長が若干遅れて出席する。議事進行について、会長に願います。
	委員	コロナウイルスの影響で延期となってしまった。他 3 地域は終了している。人がいなくなる中で、遠軽町はどうやって行くべきかが基本。町がしっかりしないと地域を守れない。合併から 15 年、大枠で考えないとならない。今後、町の財政も苦しくなっていく、地域で生きていくのも大変になる。全体を考えていくこともまちづくり会議の役目だと思う。地元で助け合わなくてはやって行けなくなる時代なので、みんな集まって色々な意見を出してもらいたい。
2 企画課 話題提供	企画課	別添資料に基づき話題提供 引き続き、欠席されている委員からご意見をお預かりしているので代読する。 「配布資料を拝見し、感じたことなどをお伝えいたします。人口については、令和 22 年で白滝 170 名とショッキングな数値であります。現実はずっと厳しいかと思えます。白滝地域は、何も手を打たなければ人口減少により消滅する可能性の高い地域であり、人を呼び込む対策が必要だと危機感をもっています。行政の人口減少対策については、まち・ひと・しごと総合戦略に記載された大枠を拝見しました。企業誘致、移住促進などに取り組むという基本フレームがありますので、行政の方々からは、その具体的な内容をお聞きしたいと感じています。そして、意見交換をさせていただいたり、自分にできることを進めていきたいと思っています。個人的には、人口減少をできる限り緩やかにすると共に、チャレンジ精神があり共にまちづくりをしていける「熱」をもった人々の数を増やしていき、地域の「熱量」を増加させていくことが大切であると考えています。そのために、地域の魅力を発信し、間口を広くして関係人口を増やしていき、その中から移住につながる人を生み出していきたいです。歳出削減として、施設を統廃合し、物件費の削減をしていくことも必要だと思います。その際に、単に使用頻度の少ない施設をなくす対象にするのではなく、別の活用方法が見出せそうな施設を人を呼び込むために転用する

	<p>のも良いかと思いました。例えば、ゲストハウス等の事業を始めたい人に提供する、企業に滞在型のオフィスとして提供する、等です。すでに白滝はそういう地域かと思いますが、UターンやIターンで来た人々を温かく迎え入れ応援できる土壌を作っていくことも、人々の定着の要になるかと思えます。自分ができることとしては、農場に滞在した若者が今までに3名遠軽町に移住してくれたことがありますので、ひきつづき農場を通して地域の魅力を体験してもらい、熱量を持った人々の移住につなげたいと思っています。また、地域の空き物件の活用も視野に入れていきたいです。また、新規就農を目指して研修中のご夫婦が実際に就農し定住できるように、自分にできるサポートもしたいです。「じゃがりんピック」の取り組みも発展させ、地域の魅力的発信や、ふるさと納税の魅力的な返礼品としての価値も高めていきたいです。ヒンメリの活動に関しては、今年はがんぼう岩をモチーフにしたエンガル・ヒンメリを製作し、札幌などの展示会で披露したいとも計画しています。行政の方々にもご協力をお願いすることがあるかもしれませんが、その際はよろしくお願いいたします。以上、文章だと言葉足らずになってしまいますが、意見を書かせていただきました。」以上。</p>
委員	話題提供に対して質疑はないか。
委員	使用料の見直しには水道料も含まれるのか？北見は今の料金ではやっていけないとのことだが。
企画課	4月に実施する使用料・手数料の見直しには水道料は含まれていない。水道料については、公営企業という形としているので、別枠で水道事業の経営の中で考える。ただし、問題としては話題提供の中の公共施設の話と同じで、老朽化した水道管をどう更新していくかということだと思う。
委員	遠軽のふるさと納税はどのくらい？
企画課	平成30年度実績で年間約2200万円ぐらいである。今年度も3月初めぐらいで昨年と同じくらいとなっている。
委員	返礼品は何を使っているか？
企画課	主力はアスパラ・じゃがいも。これで半分ぐらいを占める。アスパラについては、供給量が限られていて、これ以上PRしても出せない。今以上にふるさと納税を増やしていこうとするなら、アスパラに頼らないで他の返礼品を考えて行く必要がある。
委員	紋別は何を返礼品にしているか？
企画課	水産物もあるし、流氷を返礼品にして、テレビコマーシャルでも取り上げられた。アイデアしだいなので遠軽にも何かあるかも知れない。

委員	白滝の人口は減っていく見通しの中、町としては支所の職員を減らしていくという考えがあるのか。
支所長	減らしていく方向にならざるを得ない。
委員	あれだけ広い事務所の活用方法はどうか考えているのか。町民向けにオープンスペースにするなどといった考えはあるか。
支所長	目下、白紙だが活用が必要。
企画課	職員数については、適正化計画があり、いいところまで来ている。来年また新たに計画を作って進めて行くので、将来的にどうするかは今後協議が始まる。
企画課	ちなみに、令和2年度の予算で支所管理事業（建物）の予算額が23,834千円となっている。なお、生田原支所9,900千円、丸瀬布支所は4,206千円ということで、圧倒的に白滝にはお金がかかっている。支所の職員を合理化するという裏には、施設の統廃合をして、ここ（白滝総合支所）に集約するといったことを、セットで考えなくてはならない。
委員	4地域の庁舎の中で白滝が一番新しいので、本所機能をここに持ってくればいい。高規格道路もつながったし、白滝から本所に通う者もいるのだから逆もある。遠軽の庁舎も建て替えの時期が来ているだろうし、耐震も必要。そこにお金をかけるなら、ここ（白滝総合支所）を使った方が財政的にはいい。
委員	実際には機能がまひしてしまうのではないかと。1万何千人がこっちに来なければならなくなる。その方がコスト高になってしまうのではないだろうか。
委員	切り離しても支障がないところだけでも、こっちに持ってこれるのでは。
企画課	今、保健福祉課や教育委員会は分庁舎に入っているが、ほんの少しの距離でも不便さを感じている。そういった不便さが毎日続くと考えると、その分の口スはかなり大きくなると思う。
委員	町民センター（の整備）が終われば、役場と消防庁舎の整備だろうと思われるが、そうすると莫大なお金がかかる。それならば、ここを直して使えばいい。
委員	施設の統廃合の中に学校も入るのか？
企画課	学校も入る。ただし、今回、瀬戸瀬小学校が統廃合されることとなったが、それについては町からというのではなく、地域から申し出をいただいてそうだった。学校は最後の砦のようなところがあるので、考え方としては、そこに配慮する必要がある。むしろ、学校の校舎をいろんな形で活用するということはある。
委員	白滝では子どもの減少に伴って、将来を心配されている親御さんもいる。昨年あたりから今後の学校のあり方について検討を始めている。芭露学園を見学するなど勉強しているところだが、例えば、地域から9年制の学校を要望したら町は受け入

		れる余地があるだろうか。
	企画課	考え方としては町の（統廃合の）考えと合っていると思う。
	委員	新規就農の方が来た時に学校がなかったら……。また、これから子育てをする一次産業の担い手もいる。
	企画課	医療と教育のないところに人は来ないと思うので、そこは意識しながらやっ行く必要がある。
	委員	父兄が懸念しているのは丸瀬布への統合。
	委員	実際、9年制は白滝でもできるのか。
	委員	9年制にすると、先生の手数は変わらないが音楽、美術の専門の先生を置ける可能性がある。生田原は小中学校のPTAと一緒に活動をしている。白滝もその方向で進めている。
	委員	地方交付税の優遇措置が終了ということだが、町の貯金は減らないということか。
	企画課	資料では令和2年度以降の数字は平成28年に作った財政計画の推計値を入れている。しかし、実際には推計より厳しい状況になっていると見える。町民センターの建設で基金を使っていくことを考えると更に厳しくなることも予想される。近年の傾向を見ても3億円程度目減りが続いている。役場庁舎整備なども将来、考えなければならないと考えると、そんなに楽ではない。これがゼロになると倒産ということなので、そうはできない。以前の三位一体改革のように交付税が激減するようなこともありうるので、50億円ぐらいは持っていないとひやひやしながら財政運営をしなければならない。
3 意見交換	委員	来年の全体会議に向けての提言ということだが……。
	委員	各地域で会議をやっているが、地域の自己中心的な考え方で持っていったいいのか。地域ごとにやったら、わが町は……という意見になってしまうのではないかと。とりあえず、わが町は……で言っているものなのか。
	企画課	前回の町長からの話にもあったが、合併して15年。一つの町になるということを前提に考えていただきたい。
	委員	地域のことを出して、町全体が良くなるように考えて行けばいい。
	委員	例えば「アンジくんのふるさとまつり」だが、ほかの地域でもそれぞれお祭りをやっており、町がお金を出している。1つの町ということで考えたらお祭りなんて1つでいいのではないかという意見も出ると思う。全体を考えたらそれぞれでやっている同じようなことを1つにしようとなるが、地域ごとで考えると、それだけは譲れないとなるのではないか。
	企画課	イベントに限らず、「今まであったからあって当然だ」というのは切り替えていた

	だきたいと思っている。その上で、これはこういう効果があるのだから・・・と考えていただきたい。
委員	全体で考えたら、イベントをなくしてもいいとなるかもしれないが、その積み重ねで生きている人がいる。やはり地域を守りたいし、そういう人が食べて行けるようにしたい。町が良くなると地域も良くなるとは分かるが、踏ん切りがつかない。例えば、シングルマザーなんかをこういう所で子どもも預かって、何かできるよといったような方針を町が打ち出すといったようなことは考えられないか。空家を活用して人を呼びたいと考えている人もいる。そういう話を行政が聞いて肩を持てるようにすべき。人を増やすというのはそういうこと。観光協会もそうだが、まちづくり会議も行政改革推進委員会も行政が密着できていない。役場からたたき台となる考え方を出して、それに対して意見を、というのならわかるが、我々に「何か出して」では話にならない。道の駅も委員会を作って意見を聞いて進めたとするが、実際うまく行っていない。来年度の全体会議で提言をとということだが、もう一回こういう会議を開くのか。
企画課	来年度、また地域ごとで1～2回会議を持ってもらい、全体会議と考えている。
委員	今日はそれに向けてある程度のことを決めればよいということか。
企画課	方向性だけ決めてもらいたい。
委員	この地域の方向性ということか。
企画課	提言の方向性ということである。
委員	全体ということであれば、同じテーマで検討しないと「うちの地域の・・・」という話にしかならない。4地域全部となると「どんな魅力ある遠軽町にするか」にしかならない。
委員	役場の考え方を示してほしい。こちらから「あそこはお金かかるからやめる」なんか言うと、反発が出る。スキー場も町が3千万円の赤字を手当てして維持している。病院だって2千万、3千万だと思っていたら、1億。皆が税金払っているのに、知らないところでお金がかかっている。
委員	今日、遠軽町担い手対策協議会の中で話が出たのだが、協議会では東京や大阪でPRをしていて、そうするとこちらに来て農業体験をしたいという人が結構いる。しかし、受け入れたくても宿泊する場所がない。お試し暮らし住宅は使えないということだが、瀬戸瀬小学校が閉校になるのであれば、教員住宅をそういうものに有効活用できないか。東京農大の世田谷キャンパスの子が農業体験に来ているが、キララン清里に泊まっている。瀬戸瀬にあれば、遠軽のどこにも行きやすい。
企画課	お試し暮らし暮らし住宅が使えないというのは、どういう話からそうなったのか。

委員	2～3 日での利用はできないということだった。
企画課	お試し暮らし住宅は町の財産なので、町が構成員になっている担い手促進協議会が事業で使うなら、色々な使い方をしてもらっていいと思う。今、丸瀬布と社名淵にお試し暮らし住宅があるが、空いていれば担い手対策協議会で使ってもらっていい。
委員	今言ったように教員住宅が空くのであれば、NPOなどに自由に使わせるといい。
委員	税金や公営住宅の家賃の滞納も結構ある。財源も考えろというなら、まず、そういうところを考えるべき。
委員	町の活気は、結局人だと思ふ。例えば離婚した人が子どもを連れて1家族でも、2家族でも入ってきたら大分違う。そういう事情ではないにしても、人手不足なので仕事はあるはずで、Uターンの人を「帰っておいで」という取組をしてみてもどうか。
委員	仕事も1年中の仕事はあまりない。だから、地元は地元で固まらなると地元で企業がなくなってしまう。そういうところにお金を落とさないと。「安いから」だけでなく、地元の企業を使うようにしないと。でも、全体的に考えるのなら、役場が最低限こうだよというものを示すべき。ここ(話題提供資料)に示されているのは、全部減るといふものばかり。マイナスしか見えない。それだったら、人を呼ぶ、お金が増えるような指針を役場が示さなければならない。
委員	遠軽町として、企業誘致の考えはあるのか。
企画課	今、企業版ふるさと納税もあるので、それに向けてアイデアを出し、企業から寄附をしてもらえよう考えている。企業誘致は、労働力の確保の面が弱いところがある。Uターン、Iターンを呼び込むような制度を作って活用するということもあり得る。他の地域でも移住・定住をテーマにしているところもある。委員がおっしゃったような取組を全町的に進めるといったことも可能性がある。
委員	人を呼び込む・定住を促すといったテーマを検討してはどうか。空家や公営住宅の活用も考えたい。それと、防犯上ダメと言われるかも知れないが街灯も間引きして点灯し、無駄を削ってはどうか。行政改革推進委員会でも出ていたが、丸瀬布などの公共施設ももっとPRして全町で使えばいい。地域の活性化のために使ってほしいという考えもあると思う。
委員	ここ最近災害が多いので、そこをPRしたい。仕事があるかが問題。
委員	選ばなければ、仕事はあるのでは？
委員	仕事も冬の除雪以外は地方に行かなければない。
委員	「人を呼ぶ」というテーマでどうか。

企画課	どうやって人を呼ぶのか。こんな方法があるというのを次回までに調べようと思うが・・・。
委員	前に役場に言ったことがあるが、町で「帰っておいで」と軽く呼びかけるような年賀状かカモメールなんかを用意して、息子さんや娘さんに送ってもらえるよう配ってはどうか。
企画課	そういう案がいっぱいあるといい。
委員	滞納もたくさんあるので、そういったところをきちんとすべきだ。施設の配置や管理も見直す必要がある。遠軽はスポーツ協会が体育施設を管理しているが、他地域は支所の職員が電気を付けたりしている。使っていない時は電気を消す、一つ閉鎖してもう一つでやるなどしていかないとならない。
委員	体育館はミニバレーで使っている？
委員	使っている。中学校の体育館でやっていて、競合するときは「のびのび」も使う。
委員	そういうところも見直したら効果がある。そういう整理をしてこないで、ここで考えと言われても、結論が出ない。
企画課	もちろん整理をする。公共施設の見直しをするのであれば、利用状況や、やめた時に代わりになる施設があるか、年間にどのぐらいお金がかかっているかというような情報が必要だと思う。それは調べてくる。
委員	でも、町全体で考えると、利用時間に対する人数なんかで言ったら、白滝が最低になる。一番先に要らないとなる。
企画課	本当にフラットに考えるとそうになってしまうが、例えば、遠軽にしか代わりの施設がありませんとなると、ミニバレーをするのに遠軽まで40km先まで行けになってしまう。それはさすがに厳しいと思う。代わりになる施設が白滝にあるのか、それとも遠軽まで行かなければならないとなると、判断が変わってくると思う。
委員	もちろんそうでないと地域として困る。人が住めなくなってしまう。
企画課	白滝は遠軽ほど人口が集中していないから、丸きり遠軽と同じ条件で比較するということにはならないと思う。
委員	極端に言うと、町はコンパクトシティ化で、白滝、丸瀬布、生田原の人は遠軽に集まって来いと思っている部分があるのではないか。
企画課	そこまで極端には考えていない。代わりになる施設が10分ぐらいの距離にあるということが基本的な考え方になっていると思っている。
委員	学校があれば、体育館はある・・・
企画課	白滝で言えば、「のびのび」の体育館と中学校の体育館の2つ要りますか？というのはテーブルに上がるのではないかと思う。体育館であったり、集会場であったり

	地域にこういう施設がある。それが築何年経っているなどの情報を明らかにする。そうすると、ここはあと何年しか持たないから、こっちに集約しましょうというような話ができる。
委員	そうすると基幹集落センターとコピエと、という話も土台に上がるということか。
企画課	基幹集落センターは、合併後すぐの施設の見直しの中でも話が上がっていた。
委員	町の魅力というのは、住んでいる人が楽しく暮らしていないと生まれにくい。いくら来い、来いと言っても、楽しくないところに人は来ない。「じゃがリンピック」など白滝じゃがのPRを行っているが、売る弾が限られるので、活動の目的を見直そうという動きになっている。レシピを活用して「じゃがリンピック」自体をもっと広げて、まずは遠軽の人にもっと知ってもらって、やがては「遠軽って「じゃがリンピック」の町だね」と言われるようになりたいという話をしている。そのように住んでいる人が楽しそうにしていたら、いい町だなあという印象が生まれると思う。できれば、教育委員会などにも協力してもらって学校の総合学習などでも活用してもらいたい。たまたま「じゃがリンピック」に参加してくれるところがあるが、そうではなくて学びの教材の一つとして入れてもらえたらいいと思っている。学校は年間スケジュールが決まるのが早いので、早い時期にPRできたらいい。
委員	ずっとここに住んでいたら、自分の住んでいるところのいいところなんて気付かない。
委員	私からしたら、北海道の同じ規模の町と比べてそんなに差なんてない。結局、縁があるかどうか。そういった縁を広げて、ばらまいて、という取組が必要。白滝じゃが加工班もホームページを作ろうとか、SNSをやろうといった話をしているところ。
委員	これからはネットの利用は必須。ネットで魅力を発信というが、魅力がわからない・・・。
委員	魅力という話で言うと、道の駅「森のオホーツク」は「オホーツク」とうたっているだから、そこに来たらオホーツクがあるというPRしたらどうか。(置いている商品が) 地元のものでないものが多い。
委員	結局はきちんとPRしていないから。こういうところで地元のものを使いましょうという意見が出ることも重要。
委員	町長は白滝のことをどう考えているか本音を聞いてみたい。ジオパークのことなどどう思っているのだろうか。
委員	やめたい気持ちはあるだろうが、この地域の活性化のためには、人を呼んでこなければならぬし、やらなければならないと多分考えている。

企画課	町長は「各地域に1つは守るものがある。それが合併の時の約束だ。」ということ は言っている。それが白滝はジオパークということ。	
委員	15年、20年経ってもそれを守っていくのか。	
企画課	地元の人のお考えもある・・・。	
委員	ジオパークに対する地元の人のお興味のなさに驚いている。子どもたちは大使だ、何 だと言っているが、地元の大人でジオパークに興味のある者は何人いるか？	
委員	先日、学校の修学旅行の時に札幌駅に着ぐるみが一緒に行ってPRしてきた。着ぐる みが一緒にいると物が渡しやすい。そういう効果がある。子どもたちも喜んでい た。それが本来の地域づくりだと思う。	
委員	石育は子どもたちにとって本当にいいと思う。ただ、逆に「あんなにお金をかけて ・・・」というようなことを言っている人もいる。	
委員	好きな人は好きだが、興味ない人にとっては全く興味がない。残念ながら。	
委員	一緒にはならないと思うが、東川や東神楽の人口が増えているというのは何かが あって増えていると思うのだが・・・。	
企画課	旭川圏域で取り合っている。	
委員	子育て支援もしている。	
委員	移住支援もある。	
委員	水道料も何かあった。	
企画課	東川は湧水を水道に使っている。やはり財政が裕福だというのがあると思う。	
委員	他の地域から移住してきたというよりは、ベッドタウンとして、そこから旭川に通 おうという人が多いとのことだ。	
企画課	実際に移住者も多いと思う。町中にはおしゃれなカフェがいっぱいある。単純にベ ッドタウンということだけではない。	
委員	遠軽も子育てなり、教育で他とは違う発想で何か考えたい。幼児教育無償化は国策 として実施されているが、それ以前に「ここだと子育てにお金がかからない。」と かがあれば、若い人が定住してくれると思う。産婦人科がなくなったとかなれば、 やはり都会に行ってしまう。	
4まとめ	企画課	今までのお話を取れんしていくと、「人を呼ぶ」ということでUターン、Iターン を促す。空き施設の活用。地域の暮らしを楽しくする。関係人口を広げる。一方で、 「施設の見直し」と「無駄の削減」というような感じだと思う。
	委員	白滝だけのことだが、テレビの共同受信施設をテレビ組合で運営管理していて、町 からもかなりの金額をもらっている。今後、人口が減っていくと町の負担がもっと 大きくなる。組合費だけでは賄えない。ケーブルの老朽化が進んでいて、交換しな

	がらやっているが、お金もかかるので有線ではなく、無線でできないだろうか。人が少なくなると、1軒のために長い距離ケーブルを伸ばさなくてはならない。
委員	無線で飛ばす方法がないだろうか。
企画課	確か社名淵の難視聴施設は、受信点と発信点があって電波を飛ばしてはいたはず。技術的にはできると思うが、距離などはわからない。
委員	支湧別まで携帯電波は届くのだから、テレビの電波も一緒に送れないのか。
企画課	放送と電気通信ということで法律の壁があるのではないかと思う。今後、NHKがネット同時配信をやる方向になっているようだが。
委員	テレビ組合の基金がだんだん少なくなっている。
委員	あれは役場でやっていたのでは？
支所長	初期投資に村がお金を出して、維持管理は組合とした。
委員	空家も多くなっていて、そういったところもきちんと処分しないと電波障害が起こる。白滝だけの問題だが、いい方法があれば行政でも考えてほしい。
企画課	テレビに関しては、各地域に難視聴の場所があって、組合でやっていたり、町が受信施設を持っていたりするが、1世帯当たり2,400円を超える部分を町が統一して支援している。確かに今後効率が悪くなっていけば、町の負担が増えていく。
企画課	次回に向けて、「人を呼ぶ」については、移住定住の資料、企業誘致のパンフレットを用意する。「行政の無駄を減らす」については、公共施設の見直しについての資料を全部は難しいかもしれないが作成する。開催時期はどうするか？
	7月初旬に開催することで決定
企画課	総合計画に対する意見に対する町の考え方について、資料をお配りしている。
委員	携帯電話不感エリアだが、東白滝に人が住んでいる不感エリアが一部ある。
企画課	ちょうど携帯キャリアとの意見交換会が予定されているので、対応したい。
5 閉会	委員 以上で会議を終了する。

20 : 50 頃終了